

平成 24 年 第 2 回定例道議会報告

北海道議会議員 北 口 雄 幸

- 【所属会派】 民主党・道民連合議員会
 【会派役員】 政策審議会副会長
 【所属委員会】 農政委員会副委員長、道州制・地方分権改革等推進調査特別委員会筆頭理事
 【党活動】 民主党北海道農林水産局長、第 6 区総支部副代表、土別ブロック支部代表
 【日 程】 平成 24 年 6 月 19 日（火）～7 月 6 日（金）18 日間
 【一般質問】

第 2 回定例道議会は、6 月 19 日（木）に開会、24 年度道補正予算、「地方財政の充実・強化を求める意見書」などを可決し、7 月 6 日（金）に閉会した。

わが会派からは、代表格質問に稲村久男議員（空知管内）が立ち、HAC への支援、エネルギー・原発問題などについて質疑を行った。

また、一般質問には笹田浩議員（渡島管内）、松山丈史議員（札幌市豊平区）、橋本豊行議員（釧路市）、広田まゆみ議員（札幌市白石区）、三井あき子議員（旭川市）、福原賢孝議員（檜山管内）の 6 人が登壇し、当面する道政課題、地域課題について道の取り組みを質した。

- 【主な審議経過】 経営が厳しい状態に追い込まれている HAC の再建策、そのための道の支援策が焦点となったが、支援策の内容が明らかにされたのは、各会派の本会議質問が行われている最中の 6 月 26 日になるなど、今定例会でも、道側の対応は極めて遅く、誠実さを欠くものだった。十分な議会論議が行えないとともに、突然に路線休止方針を示された女満別、釧路両空港の地元などとの議論も不十分なままで、今回も、あくまで、つなぎ的な支援策を講じるだけの、先送りの対応に終始した。

また、東日本大震災を踏まえて改訂された太平洋沿岸津波震災予測図の報告、道立病院事業改善プランに向けた検討委員会意見などが、いずれも閉会前日の所管委員会で報告されるなど、重要な課題について、議会での議論を避けるかのような対応が相次いだ。

知事をはじめとする道職員側に、道政課題、地域課題に関する論議を真っ向から受け止める姿勢が薄れているのは、極めて遺憾だ。

道は、原発、エネルギー課題や、防災強化策をはじめとして山積する問題への対応を迫られている。こうした問題解決のためには、道議会や地域と、誠実に向き合う姿勢が求められる。

可決された補正予算は、一般会計で 42 億 6 千万円。HAC 支援事業費 3 千万円のほか、災害復旧費、記録的豪雪で破損した農業ハウスの復旧補助費、国からの交付金による各種基金の補正などが内容。これで、24 年度道予算は一般会計 2 兆 7,452 億円、特別会計 5,357 億円の合計 3 兆 2,809 億円となった。

【平成 24 年度補正予算】

単位：千円

| | 一般会計 | 特別会計 | 合計 |
|----------|---------------|-------------|---------------|
| 当初予算計上額 | 2,740,995,869 | 535,698,785 | 3,276,694,654 |
| 2 定提案額合計 | 4,259,804 | | 4,259,804 |
| 2 定追加提案額 | 4,227,585 | | 4,227,585 |
| 2 定冒頭提案額 | 32,219 | | 32,219 |
| 合計 | 2,745,255,673 | 535,698,785 | 3,280,954,458 |

【採択された決議・意見書】（◎は政審発議、○は委員会発議）

- ◎地方財政の充実・強化を求める意見書
- ◎全国健康保険協会管掌健康保険に関する意見書
- ◎けいれん性発声障がい（SD）の研究・治療等の推進を求める意見書
- ◎一定規模以上の施設における調理師の配置の義務化を求める意見書
- ◎「こころの健康基本法（仮称）」の早期制定を求める意見書
- 義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書
- ロシア首相の北方領土訪問に抗議し領土問題の解決促進等を求める意見書
- 森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書
- 道路の整備に関する意見書
- ◎第 32 回オリンピック競技大会及び第 16 回パラリンピック競技大会東京招致に関する決議

【当面する課題と会派の対応】

(1) 北海道エアシステム（HAC）について

北海道エアシステム（HAC）の深刻な経営危機は、3月の第1回定例会でも大きな焦点となっていたが、この時点では、道の貸付金の返済猶予、丘珠ターミナルビルや日本航空（JAL）への支払い猶予といった、先送りの対応をした上で、同社の経営について、第三者機関による事業の採算性評価を行い、これをもとに、道の関与団体の改革を存廃も含め協議する仕組みである「経営検討委員会」の対象とすることで、6月までに道としての方針を決定するとしていた。

ところが、今定例会に向けての対応も遅く、定例会冒頭での道としての提案はできなかった。このため会派は、開会日の6月19日、知事に対し、HACの現状と今後の経営課題についての情報を明らかにすることを申し入れた。

にもかかわらず、道としてのHAC経営改革案、これに伴う道の支援策が示されたのは、6月26日で、補正予算案提案は27日だった。改革案では、3機の所有機をフル稼働する負担を減らし、採算を改善したいとして、女満別－丘珠線及び旭川－函館線を休止、その一方で函館－丘珠線の増便、青森県三沢空港への乗り入れ検討などが示された。また、釧路－丘珠線については、「今後の利用状況を注視し対応を検討」と記述された。道の支援は、今後3年間に期間に、①支援事業費3,200万円、②道からの貸付金の返済猶予と貸付金利見直し、③HACの金融機関からの融資の損失補償枠2億円の設定。支援事業費は、離島航空路補助の事業者（HAC）負担分への補助2,400万円と、利用促進策への補助800万円。

会派は、会派内に設置した、「航空ネットワーク検証プロジェクト」（日下太朗座長）等での検討を進めながら議論に臨み、①知事や道としての責任ある対応、②使用機材問題などを含む中長期展望、③出資協力等をしてしながら路線休止等となる地元への誠意ある対応—などを求めた。

道の今回の支援策は、目先の資金対策でしかない。また、路線休止や道外路線検討は、道内航空ネットワークというHACの基本理念を揺らがすものだ。

JAL出身の社長や道から派遣されている役員が近く交代する方向が明らかにされており、会派は、今後もHAC問題をはじめとする道内航空ネットワークの課題についての検討作業、議会論議を展開していく。

【広報等】

*道政報告「ゆうこう便り」の発行 2012年7月（夏号）31号

*ホームページの開設 2007年7月開設、ブログは毎日更新中 <http://y-kitaguchi.net/>